

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)長久手自動車販売店(ショールーム)	階数	地上4階
建設地	愛知県長久手市杖ヶ池203番,204番	構造	S造
用途地域	準住居地域	平均居住人員	40人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	物販店,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年7月6日
敷地面積	1,870 m <sup>2</sup>	作成者	磯邊智洋
建築面積	1,119 m <sup>2</sup>	確認日	2018年7月6日
延床面積	2,865 m <sup>2</sup>	確認者	磯邊智洋



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	93%
③上記+②以外の	93%
④上記+	93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

音環境	3.6
温熱環境	2.3
光・視環境	2.7
空気質環境	2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

機能性	2.9
耐用性	3.1
対応性	3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

建物外皮の	1.0
自然エネ	3.6
設備システ	2.4
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	3.4
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化	3.2
地域環境	2.4
周辺環境	3.2

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

**3.2**

#### ③敷地内の緑化

**1.0**

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	16.9 %
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.8 %

#### ②資源の有効活用

**3.3**

#### ④地域材の活用

**1.0**

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています



<b>3 対応性・更新性</b>				3.6	0.29			-	3.6
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高3.9m以上	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			建物全体の壁長さ比率 0.173	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.4	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性			仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	5.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.35			-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									2.9
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40			-	2.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			非住宅部:[BPI][BPIm]=1.14	1.0	0.14			-	1.0
2 自然エネルギー利用			トップライトの採用	3.5	0.24			-	3.5
3 設備システムの高効率化				2.4	0.37			-	2.4
4 効率的運用				3.0	0.25			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30			-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、省水型機器を用いている	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			-	3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	長尺塩ビシート	3.0	0.21			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	OAフロア、LGS+石膏ボード	5.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30			-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率 96%	3.2	0.33			-	3.2
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			評価する取り組み表の評価ポイントの合計値が4ポイント	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

# 重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)長久手自動車販売店(ショールーム棟)新築工事

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:16.9%/建物緑化:0.8%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

### ■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)長久手自動車販売.

計画上の配慮事項	
総合	事務室の天井高2.9m以上、自然換気有効開口部面積が居住面積の1/15以上を確保し、室内環境に配慮した計画をしている。省水型機器の選定、トップライトを使用し環境へも配慮している。
Q1 室内環境	自然換気有効開口面積が居住面積の1/15以上 開口部遮音性能がT-2以上
Q2 サービス性能	主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用 外装仕上げの補修必要間隔 物販店30年以上、工場25年以上
Q3 室外環境(敷地内)	植栽により、良好な景観を形成している
LR1 エネルギー	トップライトの採用
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、省水型機器を用いている
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率 96%
その他	特になし